

こんなブースがありました!

電線から生まれた知恵

滋賀県電気工事工業組合

このブースでは知恵の輪が配られており、年齢を問わず多くの人からの人気を集めていた。知恵の輪は電線を使って1つ1つ手作業で作られており、形や大きさが少しずつ違う。電線アートは、手の空いた職人たちが仕事の合間に余った電線を使って始めた遊びが発祥だという。知恵の輪の持ち手はハート型であり、このブースの電線を扱う方の6歳のお孫さんのアイデアだ。可愛くて持ちやすいデザインと評判だそう。さらに、私たち新聞部員にネームプレートを作成してくださった。それは1本の電線から作られており、職人たちはこれを器用な手さばきで扱っていた。



電線で作られた知恵の輪



上から見た景色



上昇する高所作業車

母親と来ていた男子は「高所作業車がすごかった。」と興奮気味に語った。

会場内で一際目を引いていた高所作業車乗車体験では、工事での高いところの作業に役立つ高所作業車に乗ることができた。この作業車が最も高いところまで上がったときは、マンションの3〜4階と同じ高さになるという。一番上まで上がると、人が多くにぎやかな会場や、輝く琵琶湖など、周りのものが全て綺麗に見わたすことができた。年齢制限もなく、子どもから大人まで誰でも乗車することができた。普段はできない体験だったので乗ってみたいという人が多かった。

上空の旅へ

滋賀県建設業協会



子どもたちが乗車したパワーショベル

最後に、高校生に伝えたいことを聞くと「ものを作る達成感はずい。機械を使ってものを作ることはよい。」と力強く答えた。

お菓子な乗り物

滋賀県建設業協会

子どもたちがパワーショベルに乗車できる体験があった。操縦士は子どもを膝に乗せ、パワーショベルを巧みに操作してお菓子を釣り上げ、子どもたちを楽しませていた。

天空の観測者

滋賀県道路建設協会

今の測量を知る

これは、「Trimble SX10」と呼ばれる3Dレーザスキャナだ。今までの視くタイプの測量機では一度写真を撮り、そこに測量する為の(座標の)点をいくつか置いて地道に測量していた。しかし、これを使えば一瞬の間に2万6600点(2〜3分で1億点)も撮れる。レンズを付ければ2km先、レンズが無ければ900m先、3Dスキャンすれば600m先までの土地の写真を撮ることができる。

Trimble SX10



▲SKY-Heli

これは、4000万円するラジコンヘリコプター「SKY-Heli」と言い、レーザーでの測量を可能にする。レーザーだと草木や土の色が撮れないが、測量したい土地を3Dスキャンできる為、その土地の深さや硬さ、形状がよく分かる。カメラを取り付ければ写真撮影も可能だ。